

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

新年あけましておめでとうございます

今年は戌年。暗い話題は、居(1)ぬ・逃(2)げる・去(3)る…の1・2・3で明るい年に！

閑話休題—怪しいタコ焼き爺さん

子どもの頃、タコ焼き屋のお爺さんが、リヤカーを引いて売りに来ていた。確か、4個で20円。8個で50円。ちょっと待ってよ。単位当たり量がおかしい。この比率なら、8個で40円のはず。しかし、小さな子どもたちは、すんなり受け入れていた。

お小遣いなどほとんど無い。駄菓子屋さんの1円や5円のモノをありがたく食べていた。舌がまっ黄色に染まる怪しげな粉末ジュースとか、後に禁止になる人工甘味料チクロ入りのモノとか。

タコ焼きは20円のを兄貴と買って、2個ずつ分けて食べていた。ところがこの20円のたこ焼き。いつも早々に売り切れてしまう。「タコ焼き、来てるでえ〜！」と誰かが叫ぶと、大急ぎで走って行くのだが、売り切れてしまう事が多々ある。

「おっちゃん、20円のヤツちょうだい」

「今ちょうど売り切れた。50円のヤツしかないわあ」

「ええ〜！ お金が足りひん。ちょっと待ってて！」。兄貴と二人で家まで走って帰り、内職をしている母に懇願する。

「50円の奴しか残ってない。お金が足りひん。一生のお願いやから、あと30円ちょうだい！」…必死に手を合わせる。少年達の一途な思いが天に通じたか、渋ちんの母親からもらったお金を握りしめて、また全速力でお爺さんのところに戻る。

「持って来たでえ〜。50円のヤツ頂戴！」

「よっしゃ、ちょっと待っときやあ〜！」

僕ら兄弟は、舟に載せられたタコ焼きを、今日は何と4個ずつも食べられる。幸せ以外の何物でもない。

そのお爺さんが引き売りに来ていたのは、多分、大阪万博のあたりまでやった。

ここまでは少年時代の甘い思い出。しかし、大人になってから、不思議な事に気づいた。もちろん単位当たり量以外に。

そもそも8個50円が売り切れるのなら分かる。「もう、タネが無い。タコが無くなった」から、「あと4個だけならあるでえ〜」とか「2個だけしか出来ひんから、それでもええか？」とか—そうなるはず。

なんで、数の少ない4個20円が先に無くなるん？ しかも、いっつも早々に…。4個が売り切れて、8個ならあるって…。

今の時代なら、きっとネットで散々叩かれるか、警察沙汰になるか—どっちかだろう。あの頃、僕らの親はみんなおかしい事に気づいていたはず。

「おかしいけれども、黙って見過ごす」

もちろんそれではダメな場合も多々ある。でも、「お爺さんかて、それで食うてるんやから」と少々事には目をつぶる、お互い様。見過ごさない事と見過ごす事のバランスを考えたいものですね、この1年。

一声社 NEWS

★『ハンカチでおはなし』第2刷！

昨年末に増刷出来！ 売れ筋です。本シリーズの第3巻は、『紙でおはなし』。夏頃の出版になります。乞うご期待！

★【春の保育書・グッズフェア】受付中！

アイテム数、冊数、条件等…臨機応変に対応致します。返品OK。ぜひご注文下さい。